

令和7年度 大分県立先哲史料館 叢書刊行記念企画展

賀来飛霞

マルチな才能を発揮した本草学者

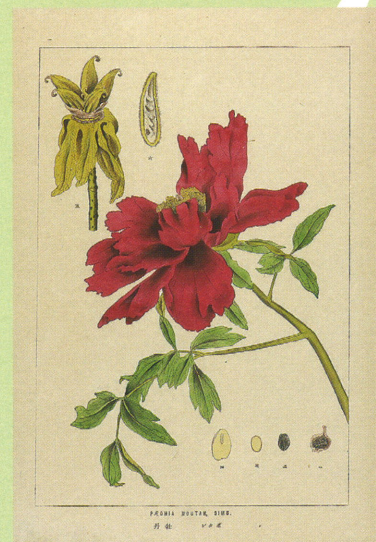
幕末の三大本草学者の一人に数えられる賀来飛霞〔かく ひか：1816～1894〕は、幕末から明治期にかけて本草学者・医師として活躍した人物です。本企画展は、大分県先哲叢書『賀来飛霞篇 評伝』の刊行を記念して開催するものです。

賀来飛霞は、本草学者として「高千穂採薬記」や「本草救荒略説」に代表される採薬記や救荒書を数多く著すだけでなく、動物や植物に関する写生図を多く描いています。明治11年(1878)からは東京大学小石川植物園に勤務し、飛霞と同じく幕末の三大本草学者の一人である伊藤圭介とともに近代植物学の成立を象徴する『東京大学小石川植物園草木図説』を刊行しました。

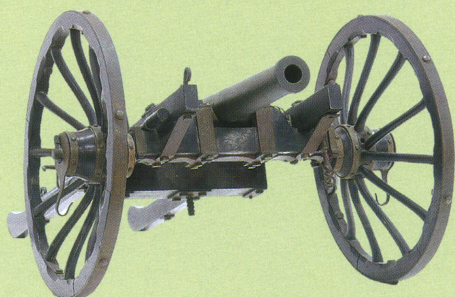
また、幕末に伝染病のコレラが流行すると医師として宇佐郡佐田村(宇佐市安心院町佐田)で患者の治療に奔走しました。慶応3年(1867)には島原藩の医師総領に任じられ、明治9年には大分県第八区(宇佐市)医務取締役、宇佐郡公立四日市医学校長兼同病院長に任じられるなど、地域医療にも大きく貢献しました。

さらにペリー来航以降、外国船が日本近海に現れ、海防の急務が叫ばれるようになると、佐田村で賀来一族の一員として大砲鋳造事業に尽力し、民間初の青銅砲・鉄製砲の鋳造に成功するなど、多方面にわたってマルチな才能を発揮しました。

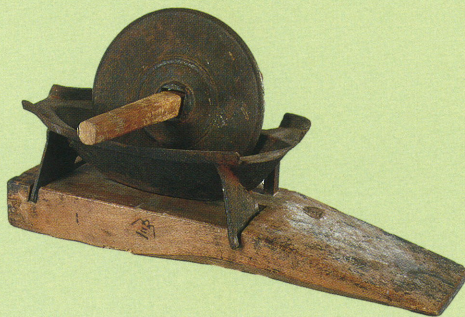
本企画展では、賀来飛霞がどのような人たちとの関わりの中からマルチな才能を育んできたのか、そして、その才能をどのように発揮してきたのかを紹介します。様々な資料を通して、賀来飛霞のマルチな才能を感じていただきたいと思います。



『東京大学小石川植物園草木図説』
(大分県立歴史博物館寄託 個人蔵)



大砲模型
(大分県立先哲史料館寄託 個人蔵)



薬研
(大分県立歴史博物館寄託 個人蔵)



「高千穂採薬記」
(宮崎県総合博物館寄託 宮崎神宮所蔵)



豊の国情報ライブラリー

大分県立先哲史料館

OITA PREFECTURE ANCIENT SAGES HISTORICAL ARCHIVES

〒870-0008 大分県大分市王子西町14-1 TEL 097-546-9380



ホームページ



Instagram



X

<https://www.pref.oita.jp/site/sentetsusiryokan/> E-mail a31710@pref.oita.lg.jp

